

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分  
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時  
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/  
午前 11時40分～午後1時30分  
電話 56-0303 (直通)  
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の  
教頭先生へご連絡をお願いします。

# 家庭と学校、教育委員会の 連携の基底をなすもの

～学力向上と家庭学習の相関に関する  
長野県教育委員会の提言をめぐって～

立科町教育相談員 岩上起美男

2年前になりますが、長野県教育委員会(教学指導課)が、小・中学生の保護者に、「未来を生きる子どものために、全国学力・学習状況調査結果分析から」というプリントを配布しました。

お読みになった方が大勢いらつしやることと存じますが、この保護者宛ての通知は、平成25年4月23日に実施された全国学力・学習状況調査の結果分析を基に、長野県の子どものための「学力を伸ばすために大切にしたい内容」を、A4判紙(両面)にまとめたものです。

通知の要旨は、「学力向上には家庭での学習も大切です。」という小見出しに集約されていると思えました。この「家庭での学習も大切」という婉曲な文言に、長野県教育委員会の揺るぎない思いが込められているのではないかと感じたからです。

その思いとは、学力の向上のためには、家庭での学習が必須であり、家の人との携帯電話やスマートフォンなどの使い方についての約束を守り、家庭学習の時間を確保することが学力向上に結び付くという信念です。そして、やれ責任の転嫁とか、やれ頭越しで、一方的な上意下達ではないかとか、やれ学力観が異なるとか、やれ朝食のことまでお上にとかやく言われることはないとか、各方面から様々な反駁を浴びてもなお、伝えるべきはきちん

と伝えようという覚悟です。

長野県教育委員会は、長野県の児童・生徒の学力向上のために、「家で授業の予習や復習をしている子どもは、していない子どもよりも正答率が高くなっています。また、家で、自分で計画を立てて勉強している子どもは、していない子どもよりも正答率が高くなっています。」という傾向の統計上の根拠を棒グラフで示し、家庭における予習・復習の必要性について、次のように述べています。

予習することで、学習の見通しをもち、学習内容を深く理解することができます。また、復習することで、学習内容を確実に定着させることができます。このように、子どもたちが学習内容を定着させる上で、予習・復習は大きな役割をもっています。また、調査結果からも分かるように、自分で計画を立てて、授業と関連付いた家庭学習にしていけることが、学力の向上に効果があると考えられます。

はないと承知しつつ、偏屈頑迷な身には珍しく、ほぼ全面的な賛意と共感を抱きました。

かねがね、授業で理解した学習事項は、随時、主体的に反復学習することによって定着するもので、学力の向上のためには、「家庭での学習が必要」と考えていたからです。そして、折々反復しなければ、理解したことや記憶したことが、右肩下りの忘却曲線のように時間の経過と共に忘れられてしまいますが、現行の授業時数の中で反復学習の時と場を十分に確保することは非常に難しいと感じてきたからです。

さらに、一年間、学校の年間総授業時数(小学校980時間・中学校1015時間)を大幅に上回る1500時間以上(二日平均4時間程度で、休日はその3倍以上)も、少なからぬ児童・生徒がテレビやゲーム、携帯電話、パソコン、スマートフォンなどの電子映像メディアに没頭している生活では、学力の向上は望めないのではないか、と案じていたからです。

さらにまた、立科小学校においても、立科中学校においても、児童・生徒に確かな学力をつけるための指導研究・授業改善に取り組むと同時に、家庭における児童・生徒の電子映像メディアに接する時間の「長時間化」による「生活リズム